

コラム3 東京にゆかりのある希少な野生生物種の紹介

本土部レッドリスト 2020 見直し版掲載種の中から、和名や学名に「東京」や「江戸」、「都内の地名」などを冠する種、発見や種の記載などの過程で東京都に関わりのある種など、東京に何らかのゆかりがある希少な野生生物を紹介する。

これらの中には、東京都がタイプ産地\*として記載された種、タイプ産地ではないが東京で採集された標本をもとに記載された種なども含まれている。

動物で 16 種、植物と藻類で 18 種掲載した。

\*）タイプ産地：基準標本が採集された場所

下線：和名に含まれる東京の地名等に関する表記 ★：タイプ産地が都内の種

東京都本土部：「本土部レッドリスト 2020 見直し版」のカテゴリー

環境省：「環境省レッドリスト 2020 年版」のカテゴリー



ヤマコウモリ ★

ヒナコウモリ科

Nyctalus aviator

東京都本土部 VU 環境省 VU

1911 年に東京をタイプ産地として記載された種で、東京都本土部では最大のコウモリ。1930 年代まで区部、1960 年代まで南多摩でも見つけていたが、2000 年以降、西多摩の既知のねぐら木が伐採され失われた。



ニセトックリゴミムシ ★

オサムシ科

Oodes tokyoensis

東京都本土部 NT 環境省 ー

1954 年に東京都練馬区石神井をタイプ産地として記載された。



ムサシトミヨ

トゲウオ科

Pungitius sp.

東京都本土部 EX 環境省 CR

1963 年に中村守純博士によって東京都と埼玉県からのみ採集された種として埼玉県熊谷産の個体写真の紹介とともに「ムサシトミヨ」の和名が提唱された。トミヨ属魚類は分類学的な混乱が長く続いており、本種の学名は未だ定まっていない。



ムサシノジュズカケハゼ ★

ハゼ科

Gymnogobius sp. "Kanto-endemic species"

東京都本土部 EN 環境省 EN

那珂川・利根川・荒川・多摩川の 4 水系の中流域にのみ生息する関東固有種として、2013 年に明仁らによって生物学御研究所に登録されている東京都あきる野市多摩川産の標本に基づく全形図とともに「ムサシノジュズカケハゼ」の和名が提唱された。学名は未だ定まっていない。



オオセッカ ★

センニュウ科

Locustella pryeri

東京都本土部 CR 環境省 EN

1884 年に東京をタイプ産地として記載された。



ヒガシニホントカゲ ★

トカゲ科

Plestiodon finitimus

東京都本土部 VU 環境省 ー

2012 年に東京都大田区池上（池上本門寺）をタイプ産地とし、ニホントカゲとは別種として記載された。



トウキョウサンショウウオ ★

サンショウウオ科

Hynobius tokyoensis

東京都本土部 EN 環境省 VU

1931 年に東京都西多摩郡多西村（現あきる野市）をタイプ産地として記載された。



タカオキリガ ★

ヤガ科

Pseudopanolis takao

東京都本土部 EN 環境省 ー

1927 年に東京都高尾山で発見され、新属新種として発表された。



ニホンスナモグリ ★

スナモグリ科

Neotrypaea japonica

東京都本土部 DD 環境省 ー

1891 年に東京湾をタイプ産地として Callinassa subterranea var. japonica の名で記載された。後に、「変種」から「種」に昇格されたが、属名は Nihonotrypaea に変更され、さらに現在は Neotrypaea とされている。



キシノウエトタテグモ ★

トタテグモ科

Latouchia typica

東京都本土部 NT 環境省 NT

1913 年に東京都文京区東京大学構内をタイプ産地として記載された。



トウキョウダルマガエル

アカガエル科

Platylax porosus porosus

東京都本土部 EN 環境省 NT

タイプ産地は神奈川県であり、名前の理由は分類の経緯から多数推察されるところである。トウキョウの名がついていることで、東京の水辺を考えるきっかけとなっている。



グンバイトンボ ★

モノサシトンボ科

Platycnemis sasakii

東京都本土部 EX 環境省 NT

1882 年に現在の井の頭恩賜公園で発見され、1949 年に亜種として記載。分類の再検討により 2021 年に独立種となった。



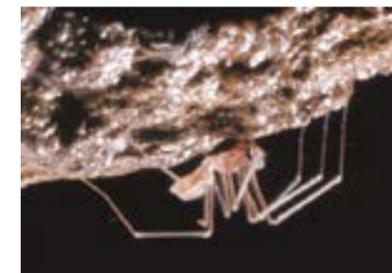
トウキョウトラカミキリ ★

カミキリムシ科

Chlorophorus yedoensis

東京都本土部 EN 環境省 ー

1929 年に東京都足立区をタイプ産地として記載された。



ニツパラマシラグモ ★

マシラグモ科

Masirana nippara

東京都本土部 VU 環境省 ー

1957 年に東京都奥多摩町日原の洞窟をタイプ産地として記載された。



トウキョウヒラマキ ★

ヒラマキガイ科

Gyraulus tokyoensis

東京都本土部 CR+EN 環境省 DD

1938 年東京都宮城前（現在の皇居前広場）楠公銅像前小池をタイプ産地として記載された。この池は、今はない。



トウキョウコオオベソマイマイ ★

ナンバンマイマイ科

Aegista tokyoensis

東京都本土部 NT 環境省 NT

1980 年に東京都文京区小石川植物園をタイプ産地として記載された。



**オクタマシダ**  
チャセンシダ科

*Asplenium pseudowilfordii*  
東京都本土部 CR 環境省 VU

アオガネシダモドキとして、1938年に田川基二博士により、遠江國香山村(現静岡県磐田郡山香村)で採集された標本に基づき、発表された。



**イワハリガネワラビ** ★  
ヒメシダ科

*Thelypteris musashiensis*  
東京都本土部 VU 環境省 ー

1948年に奥多摩町の棒ノ折山で採集された標本に基づき、1951年に檜山庫三氏により発表された。



**タカオシケチシダ** ★  
メシダ科

*Athyrium decurientialatum* f. *platyphyllum*  
東京都本土部 VU 環境省 ー

高尾山で採集された標本に基づき、1930年に中井猛之進博士により発表された。当時の学名は、*Cornopteris musashiensis* Nakai で、種小名に「武蔵」が付けられていた。



**ハナムグラ** ★  
アカネ科

*Galium tokyoense*  
東京都本土部 EX 環境省 VU

種小名 *tokyoense* は、「東京産の」の意味で、牧野富太郎博士が東京府南葛飾郡小岩村などで採集した標本をタイプとして、1903年に記載発表された。



**タカオホロシ** ★  
ナス科

*Solanum japonense* var. *takaoyamense*  
東京都本土部 EN 環境省 ー

牧野富太郎博士が高尾山で採集し、1926年に新種として発表した。後に原寛博士によりヤマホロシの変種と学名が改められた。



**タカオヒゴタイ** ★  
キク科

*Saussurea sinuatooides*  
東京都本土部 NT 環境省 ー

和名タカオヒゴタイは、「高尾平江帯」の意で、タイプ標本の採集地は高尾山である。中井猛之進博士により1909年に命名された。



**ヤマクラマゴケ** ★  
イワヒバ科

*Selaginella tamamontana*  
東京都本土部 VU 環境省 ー

1977年に奥多摩町日原で採集された標本に基づき、1978年に芹沢俊介博士が発表した。



**アズマツメクサ** ★  
ベンケイソウ科

*Tillaea aquatica*  
東京都本土部 EN 環境省 NT

明治中期に植物学者の池野成一郎博士と牧野富太郎博士により、杉並区の大宮八幡宮周辺の田んぼで発見された。



**アズマシライトソウ** ★  
シュロソウ科

*Chionographis hisauchiana*  
東京都本土部 CR 環境省 VU

1951年に佐藤達夫氏により霞村(現青梅市)で採集され、1952年に奥山春季博士により、シライトソウの関東地方の型として発表された。



**ハチオウジアザミ** ★  
キク科

*Cirsium tamastoloniferum*  
東京都本土部 EN 環境省 ー

2003年に内野秀重氏により八王子子津貫町で発見されたアザミで、2012年に国立科学博物館の門田裕一博士が新種として発表した。



**カワラニガナ** ★  
キク科

*Ixeris tamagawaensis*  
東京都本土部 VU 環境省 NT

種小名 *tamagawaensis* は多摩川に由来する。牧野富太郎博士により、1892年に発表された。



**カワラノギク** ★  
キク科

*Aster kantoensis*  
東京都本土部 EN 環境省 VU

1927年に立川市内の河原で発見され、北村四郎博士により学名がつけられた。種小名 *kantoensis* は、関東地方の河川の中流域に生育することから名前がつけられた。



**タマノカンアオイ**  
ウマノスズクサ科

*Asarum tamaense*  
東京都本土部 EN 環境省 VU

和名タマノカンアオイは、「多摩の寒葵」の意で、産地の多摩丘陵に基づく。また、種小名 *tamaense* は、「多摩産の」の意味。タイプ産地は登戸村(現川崎市登戸)であり、1931年に採集された標本に基づいて、牧野富太郎博士が命名した。



**タマノホシザクラ** ★  
バラ科

*Cerasus tamaclivorum*  
東京都本土部 CR 環境省 CR

2003年に大原隆明氏らが新種の桜を発見し、2004年にホシザクラと命名し発表した。その後、栽培品種との混乱を避けるために和名の変更が提案され、タマノホシザクラと命名された。



**ムジナモ** ★  
モウセンゴケ科

*Aldrovanda vesiculosa*  
東京都本土部 EX 環境省 CR

1890年に江戸川区北小岩四丁目先の江戸川河川敷の用水池で、牧野富太郎博士により発見された。発見地の小岩菖蒲園には、ムジナモ発見の記念碑がある。現在、ムジナモは野生では絶滅している。



**カンエンガヤツリ** ★  
カヤツリグサ科

*Cyperus exaltatus* var. *iwasakii*  
東京都本土部 VU 環境省 VU

上野の不忍池で採集された標本に基づいて、牧野富太郎博士が1903年に新種として発表した。



**シムラニンジン**  
セリ科

*Pterygopleurum neurophyllum*  
東京都本土部 EX 環境省 VU

和名は、東京都板橋区志村の湿地に多く生えていた事による。



**イノカシラフラスコモ** ★  
藻類

*Nitella mirabilis* var. *inokashiraensis*  
東京都本土部 CR+EN 環境省 CR+EN

1957年に東京都三鷹市の井の頭公園の池および神田川上流部で発見され、1965年に新種として発表された。その後、確認されなくなったが、井の頭池でのかいぼりにより、2016年に復活が確認された。

## 写真提供者

以下の方々から写真を提供していただいた。お名前をあげて心より感謝の意を表したい。

(五十音順、敬称略)

### 〈個人〉

畔上能力、内野秀重、内山香、大沢夕志、大塚勇哉、奥田重俊、小野展嗣、金澤光、草野保、倉本宣、源河正明、新海栄一、趙賢一、丹羽和仁、藤井良造、御手洗望、三間久、飯森政宏、宮崎佑介、山崎文晶

### 〈団体・専門機関等〉

NPO 法人生態工房、NPO 法人 NPOBirth、(株)愛植物設計事務所、神代植物公園植物多様性センター  
東京都環境局、東京都港湾局、東京都西部公園緑地事務所、東京都東部公園緑地事務所、(有)ゼフィルス